

県サンクチュアリセンター前に、整備した湿原に咲いたサワオグルマ（見頃は5月末頃まで）。時に水田跡に大群落を作りますが、他の植物が茂ると消えてしまいます。

Vol.96  
平成30年6月号

## — 湿地に生える草花の復元へ —

尾瀬や霧ヶ峰といった湿原は、ニッコウキスゲなどの美しい草花の宝庫です。あまり知られていませんが、伊豆沼にも湿原が存在し、美しいカキツバタなどが生えています。しかし沼の湿原は、ヨシ刈りなどの管理が行われなくなったため荒れてしまい、湿原に生える草花は減っています。そこで、財団では、藪に覆われた湿原跡を元の状態に戻し、生育する草花を増やす取り組みを行っています。さっそくサワオグルマやギンランの花が咲きました。



ニッコウキスゲ(サンクチュアリセンター隣のラムサール記念公園)



カキツバタ(伊豆沼の水生植物園)



## 伊豆沼・内沼の自然を楽しもう 学べる体験型の講座

### 水辺の生き物採集と観察会

第1回 6/16(土) 10:00~13:00

第2回 7/8(日) 10:00~13:00

初夏の沼で活発に動き回る魚や昆虫を捕まえて、観察しよう。

### 昆虫採集と標本作り

第3回 7/22(日) 10:00~15:00

第4回 8/4(土) 10:00~15:00

沼の周りで昆虫を採集して標本作り。いろいろな網を使い、魚を取る漁師

### 伊豆沼漁師体験

第5回 8/18(土) 10:00~13:00

第6回 9/2(日) 10:00~13:00

夏休みの自由研究にいかがですか。 になるう。

対象は小学生以上、第3・4回は小学生のみ(各回小学生は保護者同伴)。定員は各回20人申込先着順。参加費1人600円(昼食代)。持ち物は長靴、汚れてもいい服、着替え、帽子、飲み物、タオル。集合場所は第1・2・5・6回は宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター(鳥館)、第3・4回は栗原市サンクチュアリセンターつぎだて館(昆虫館)。◆お申し込み、お問い合わせは宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター TEL0228-33-2216





## — 高校生が解剖の実習 魚類の専門家が伝授

宮城県本吉響高校（気仙沼市）の科学部員7人が、5月5日にサンクチュアリセンターでフナを解剖する実習をしました。財団の魚類の専門家から、正式な手法を習い、魚の体の仕組みを学びました。慣れない手付きながらも、興味深い様子で取り組みました。部員は「自然に触れる機会が少なくなる中、貴重な経験ができて良かった」と感想を話しました。



サンクチュアリセンターでフナの解剖をする本吉響高校の皆さん

## — 伊豆沼・内沼生き物図鑑

### 「えび餅のエビ」

えび餅（霞ヶ浦産のテナガエビを使用）



この地域の伝統食である「えび餅」。これに使われるのは3cmくらいの「ヌカエビ」という種類です。スーパーに並んでいるエビは茨城県霞ヶ浦産の「テナガエビ」です。地元産のエビを使ったえび餅が減って残念に思っていました。ところが、伊豆沼・内沼の外来魚駆除により最近「ヌカエビ」が復活しつつあります。定置網にキロ単位で獲れることも。伝統の味を試してみませんか？

ヌカエビ（最近伊豆沼で増えてきた）



## — 東京農大生が実習 在来魚の減少をストップ

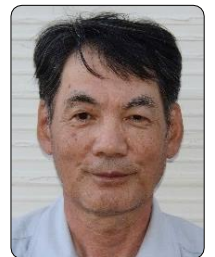


柴田 大志さん  
電気ショッカーボートに乗り伊豆沼のブラックバスを駆除  
5月1ヵ月間の就業体験

東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科（オホーツクキャンパス）からインターンシップで来ている柴田大志（20）です。地元の滋賀県では、外来魚による在来魚の減少問題が大きくなっています。私はこの問題を解決するためにサンクチュアリセンターで電気ショッカーボートの乗船や人工産卵床の設置、バスバスターズに参加して、藤本泰文先生のもとで個体数管理について学んでいます。今の時期はブラックバスの産卵シーズンで、もう少しすると卵が孵化し稚魚がヨシの周りを泳ぎはじめます。絶好の季節に来れたことに感謝し、伊豆沼で学びつつ、一人ひとりとの出会いを大切にしっかりと得るものを得て帰りたいと思います。

## 新職員の紹介

（5月）



業務補助  
佐藤 敏 郎  
伊豆沼内沼の自然がいつまでも保たれるよう努めます。

